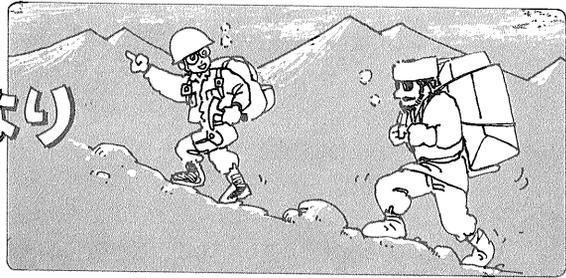


# 海外室だより



No. 24

## 海外室スタッフの異動

本年4月を中心に 海外室のメンバーにかなりの変動がありました。

2月に特殊技術課長へ転出された桑形さん(No.21参照)に続いて 斉藤友三郎さんと福田 理さんのお2人が 定年退官により 3月31日付で海外室を去られました。

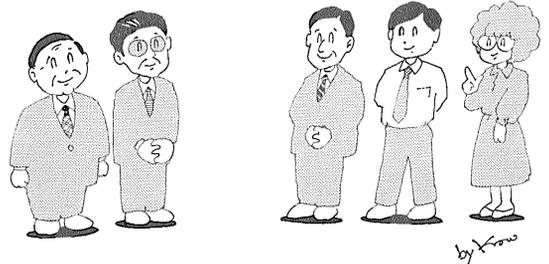
永年に亘る地質調査所在任中 お2人はそれぞれの専門分野で多くの業績を残されました。 退官まで在籍された海外室において 斉藤さんは海外技術者研修のグループ長として 沿海及び地下水の2つの外国人集団研修コースを統括され 円満なお人柄と緻密なお仕事振りは 研修スタッフはもとより 参加した研修生からも 等しく信頼され親しまれてきたところです。 また 福田さんは IUGS の国際地質層序対比委員会の当所代表を務められるなど 海外地質の研究に優れた成果を収めました。 定年制などがなければ まだまだ第一線で御活動いただけたはずで 誠に残念な次第です。 永年の御足跡に心から敬意と感謝を表しつつ 今後の御活躍を祈ります。

斉藤さんの御退官に伴い これまで沿海コースのリーダーであった武居由之主研が海外技術者研修のグループ長に サブリーダーの木下泰正主研がコースリーダーに変更され 新たなサブリーダーとして燃料部の井波和夫主研が 4月1日付で当室に併任されました。 木下・井波の新コンビは 21回目を迎える沿海コースの運営に新風を吹き込んでくれることでしょう。

同じく4月1日付で 金井 豊技官(技術部)の当室併任 桑形さんの後任の技術協力専門職への広山禎子事務官の転入が発令されました。 外国人との応接にはすでに定評のある広山さんとフレッシュでハンサムな金井君との加入は 海外室の新戦力として期待を集めています。

4月9日にタイから帰国した平山次郎主研(No.22参照)は 5月1日付で燃料部へ移りましたが 引き続き当室併任として CCOP での経験を活かして 国際プロジェクトの推進に協力して頂くことになっています。

5月1日には国際研究協力課併任者の交代も行われました。 国研課併任者は 工技院と当室のパイプ役的一面を持つことから 昨年度から当室にも併任されることになっています。 13ヶ月の併任を終えた鹿野和彦主研(地質部)に代って 森下祐一技官(鉱床部)がその任に就きました。 予定を1ヶ月オーバーした鹿野主研の御



苦勞を多とし 森下技官の健闘を祈ります。

以上の異動により 海外室は室長以下本務者7名 併任者8名の計15名で運営される体勢となりました。 62年度予算案の国会通過が遅れ 在外研究等の実行が手控えられていましたが 沿海コースの集団研修の開講(6月1日)を皮切りに 研究協力計画等はこれから活発に滑り出すこととなります。 内外の皆様の御協力・御支援をお願い申し上げます。

(遠藤 イラスト・河村)

地質ニュース	第395号	7月号
	定価 ¥630	〒実費
昭和62年7月1日	発行	
編集	工業技術院地質調査所	
発行人	林 久 雄	
発行所	株式会社 実業公報社	
	東京都千代田区九段南4の2の12	
	〒102	
	Tel. (03)265-0951 (代表)	
	振替口座 東京1-32466	
総発売元	株式会社 実業公報社	
	出版事業部	

©1987 Geological Survey of Japan